

令和4年度 第3回 富塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年11月21日（月） 14時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 富塚中学校 2階会議室
- 3 出席者について 別紙参照
- 4 傍聴人 1人
- 5 熟議事項

（1）～来年度の富中コミスクについて～

- ・ グループ討議 （テーマ：『持続可能な富中コミスク』）
 - A（◎深田、水野、仲村、遠藤）
 - B（◎山口、村松、野嶋、井口、安間）
 - C（◎行森、鈴木、西村、森光、加藤）
- ・ グループ発表
- ・ 全体熟議

（2）その他連絡事項

- 6 会議録作成者 CSディレクター 岩邊 三幸
- 7 会議記録

司会の松島から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

また、島田委員から山口委員を議長に推挙する旨の説明あり、全員異議なくこれを選出した。

（1）来年度の富中コミスクについて

議長の指示で、各学年の年間計画の確認、課題、今後の展望について、学校職員と委員とでグループ別に熟議し、次のように発表した。

（グループA）

- ・ コロナ禍以前の活動として、パパ・ママ体験は富塚中学校が最初に取り組んだ学校だと聞いている。復活できるようにであれば、是非お願いしたい。3年生では助産師さんに話をしてもらおう予定。（深田）
- ・ SDGs講座も小学校から学んできていると思うが、改めて基本を学ぶという意味で続けていきたい。（深田）
- ・ 書道はプロ中のプロの方に教えて頂けるいい機会なので、時間調整が難しいと思うができれば続けてもらいたい。（深田）
- ・ 職場体験・フィールドワークは教員が昼間電話できない中で、学校支援CDの方がやって下さっており、非常に有り難く思っている。（深田）
- ・ コミスク面談も、教員ではなく普段顔を見ていない方との面接練習は緊張感もあって、いい機会になっている。（深田）
- ・ 何よりもセンターの活動が活発で色々されているので、そのおかげで子ども達も社会参画ができていると思う。（深田）

(グループ B)

- ・ 富塚は地域人材が豊富で有るので、そういった方々を今後 CS の活動や授業に活かしていければと思う。(元プロサッカー選手、プロの音楽家、富塚の歴史、プログラミングや測量等)。(村松)
- ・ 英語スピーチや英語での面談では、英語を母国語とされている保護者がいらっしゃるの、そういった方にお願ひすればネイティブな感覚でみていただけるのではないかと。(村松)
- ・ 文芸大や工学部も近くにあるので、理科や技術方面は何か頼ればやっていただけるのではないかと。TSのまとめ方や発表の仕方は、できれば一年生の早い内に話を聞ければと思う。(村松)

(グループ C)

- ・ コロナ禍以前の活動としてまたできればいいなと思う活動もたくさんあったが、その中でもお年寄りとの交流では昔のお話を聞くだけでなく、こちらからもお手伝いできることもあり、相互に利点があるのではないかと。できれば今ある講話は継続して欲しい。(鈴木)
- ・ TSの発表の仕方では、今までは模造紙に書くだけの発表だったが、ここ最近ではタブレットを使った発表もあるので、どのようにすればもっと効果的にできるか、より良い発表の仕方を専門の方に教えてもらえればと思う。(鈴木)

グループ発表を受けて、委員から以下のような発言があった。

- ・ ピアサポートやアンガーマネジメントのような活動が続いていると、友達同士の関係がこなれているので、子ども同士の人と人との壁が段々下がってきて、落ち着いてくるのではないかと。恐らくこういうことをやられているので、富塚中の生徒は穏やかに生活できるのではないかと。(遠藤委員)
- ・ 地域としては色々な要望がある中で、可能な限り人材の発掘に協力したい。(井口委員)
- ・ 校長先生がビデオで子ども達の活動を見せてくれたが、あのよう子ども達がリーダーシップを取りまとめるような体験を増やしていただければ、社会に出たときにその経験が繋がっていき、活躍できるような人材になるのでは。そういう活動に運営協議会のほうでも関わることができればと思う。(安間委員)
- ・ 子ども達にやる気を起こさせてくれる地域の人材がたくさんいるというのが、富塚の強みではないかと。(仲村委員)
- ・ 特に協働センターの行事の企画の中に、中学生ボランティアの育成というのがあり、こういった活動はすごくいい経験にもなる。与えられた事に対し、こう応えていこうというやる気を起こさせてくれる事業が今度行われる協働センターまつりにもしっかり入っているの、是非参加して子どもたちの様子をみてもらいたい。(仲村委員)
- ・ 来年度の活動としては、今までやってきたことを継続出来るものは継続してもらえればと思う。(森光委員)
- ・ コロナ禍で高齢者が動けなくなってきたり、ゴミ捨てが厳しくなっている。地域包括支援センターではそういった高齢者の生活支援体制作りにも今後中学生を活用できないかと検討している。(森光委員)
- ・ TS講話は色々な職種の方の話を聞いてチャンスを与えた方がいいと思う。若者の離職率が高いというのもあり、富塚には色々な職種の方がいるので、子ども達には営業マンや経理の方等実務に近い話をし、もう少し突っ込んだ社会を見せてあげればいいのではないかと。(加藤委員)
- ・ 「持続可能なコミスク」という意味では、学校支援CD、教員が代わったとしてもこれらの活動をどう継続して維持していくかというのが課題ではあるが、基本的なものはしっかりしているので、大きくいじる必要はないと思う。(島田委員)

- ・ 富中生はCS活動やボランティア活動も積極的に行っているが、地域の外に出たときにギャップがあると言われる。地域の中ではまとまって行動できるが、外に出た時にどういった社会が展開されているかを知り、そこで柔軟に対応できるような企画・運営作りをしていけばいいのではないかと。（島田委員）
- ・ コロナ禍以前に向かいあって給食を食べていた15分は貴重だったと思う。3年間で換算すると道徳の授業4年間分くらいに相当するコミュニケーションの時間を失われていることになる。そういう事情もあり、ピアサポートやアンガーマネジメントを意図的にやらないといけないと思った。人が話を聞いてくれると安心して暮らせるという雰囲気を作りたくてしている。できれば継続していきたい。（村松）
- ・ コロナ禍で職場体験が中止になった学校もあるが、富塚中はそんな中でもやっており貴重な経験をさせて頂いている。富塚中の校訓として「感謝・探求・実践」があるが、この「探求」というのが一つポイントであると思う。こういった本物に触れてくることで、自分の幸せや周りの人の幸せを追究していく、探求していくということに繋がっていくので、こういった活動は今後も継続していきたい。（校長）

（２）連絡事項

教頭より、本年度の運営協議会自己評価の作成依頼について説明があった。

次回会議は、令和5年2月22日（水）14時30分から開催する旨の報告があった。

第3回 学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

会 長	島田 篤志
副 会 長	安間 忠雄
委 員	井口 隆夫
委 員	森光 隆明
委 員	遠藤 喜和
委 員	仲村 由紀子
委 員	加藤 宏史
委 員	山口 明子
委 員	行森 瑞恵

【欠席委員】松澤 久仁美

オブザーバー

富塚協働センター主任	野嶋 京登
------------	-------

学 校

校 長	中津川 貴一
教 頭	松島 雄次郎
教務主任	深田 貴代
3 年主任	村松 郁枝
2 年主任	鈴木 善久
1 年主任	西村 脩平
ほたる学級主任	水野 仁美
C S ディレクター	岩邊 三幸